

令和 4 年度 医療的ケア児基礎調査 年齢区分別クロス集計結果

令和4年度医療的ケア児基礎調査 年齢別クロス集計について

▶クロス集計について

令和4年度に実施した「医療的ケア児基礎調査」で得られた結果のうち、主に「困りごと」に関連する項目について、ライフステージごとの傾向を見るため、年齢別（3歳階級）でクロス集計を行った。

▶クロス集計を行った項目

- (問16) 医療に関して困っていること
- (問21) 医療的ケアをしている方が負担に感じていること
- (問23③) 保育所・学校等における医療的ケアに関して困っていること、心配なこと
- (問23④) 医療的ケア以外に、保育所・学校等において充実してほしいこと
- (問33) 病気や療養、生活に関すること等の保護者の相談相手
- (問34) 保護者の方にとって、不足している情報
- (問35) 今後、保護者の方が相談したいと思うこと

表中の凡例は次のとおりです。

- ① **太枠・網掛け**：それぞれの年齢階級で最も多く回答のあったもの。
- ② 網掛け：それぞれの年齢階級で①の次に多く回答のあったもの。

問16 医療に関して困っていること

年齢	病気の説明が不十分	検査や治療の説明が不十分	薬の副作用が心配	薬が多い	検査が多い	心の悩みを相談できない	急に病気が悪化したときに入院できるか心配	受付・支払いなど窓口の対応が十分でない	専門医が少ないため受診医療機関まで通院するのが遠い	医療機関がバリアフリーでない	保険診療以外の医療費などの負担が多い	小児期から成人期へ移行するときの医療について心配	その他	特にない
0～2	2	4	2	3	1	5	6	2	0	2	5	7	4	1
3～5	0	0	2	2	1	2	9	0	3	1	3	7	3	1
6～8	0	1	3	9	0	3	10	7	6	1	4	19	5	3
9～11	1	1	3	8	1	3	10	0	3	2	2	18	4	6
12～14	0	0	2	1	1	0	10	1	2	0	1	12	2	7
15～17	0	1	3	0	0	1	8	5	3	1	3	17	3	4
18～19	0	0	2	2	1	1	5	1	2	0	1	7	0	4
未回答	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	0	1	0
総計	3	7	17	25	6	15	60	16	20	7	19	87	22	26

- すべての年齢階級において「小児期から成人期へ移行するときの医療について心配」と「急に病気が悪化したときに入院できるか心配」の回答が最も多くみられました。
- そのほか、0～2歳、3～5の乳幼児期では、医療に関するもののほか、保護者・家族の「心の悩み」に関することなど様々な困りごとについて回答がありました。
- また、6～8歳、9～11歳の小学校期では、「薬が多いこと」や「専門医が少ないため医療機関まで通院するのが遠い」ことに関して困っているとの回答が多くみられました。

問21 医療的ケアをしている方が負担に感じていること

年齢	睡眠時間がとれないこと	休憩する時間がとれないこと	家事をする時間がとれないこと	お子さんの兄弟姉妹や自分の親など、他の家族の世話を する時間がとれないこと	就労する時間がとれないこと	趣味など自分自身のこと をする時間がとれないこと	家族以外の人と交流する 機会が少なくなってきたこと	自分が行っている医療的 ケアで間違いがないか不安である こと	その他	特になし
0～2	10	5	5	5	7	6	8	6	1	0
3～5	9	8	7	8	13	10	9	4	0	0
6～8	18	15	12	15	15	17	11	3	2	4
9～11	11	9	4	12	13	12	8	1	4	1
12～14	7	9	2	3	6	11	4	0	1	1
15～17	9	9	6	9	7	13	6	2	5	1
18～19	6	5	3	4	6	5	4	2	2	3
未回答	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
総計	71	61	40	57	68	75	51	19	16	10

- 0～2歳では、「睡眠時間が取れないこと」や「家族以外の人と交流する機会が少なくなってきたこと」が多いほか、「休憩する時間がとれないこと」、「家事をする時間がとれないこと」、「お子さんの兄弟姉妹や自分の親など、他の家族の世話を
する時間がとれないこと」、「就労する時間がとれないこと」、「趣味など自分自身のことをする時間がとれないこと」などについて満遍なく回答がありました。
- 3～5歳では、0～2歳と同様に各項目に回答がありますが、特に「就労する時間」や「自分のための時間が取れないこと」が多くありました。
- 「休憩する時間がとれないこと」や「家事をする時間がとれないこと」、「お子さんの兄弟姉妹や自分の親など、他の家族の世話を
する時間がとれないこと」、「家族以外の人と交流する機会が少なくなってきたこと」については、6～8歳、9～11歳の小学校年齢に多くみられました。

問23③ 保育所・学校等における医療的ケアに関して困っていること、心配なこと

年齢	保護者の付き添いが求められる	保育所・学校等の職員が行うことができる医療的ケアの範囲が限られる	保育所・学校等の職員が行う医療的ケアに不安がある	保育所・学校等の広さや設備、バリアフリー等が不十分である	保育所・学校等の建物や設備の衛生面に不安がある	他の児童の行動（お子さんの傍で走る、医療機器を触る等）が心配	保育所・学校等への送り迎えの負担が大きい	保育所・学校等の近くに医療機関がなく、いざという時に不安がある	その他
0～2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3～5	1	1	0	1	0	2	2	1	1
6～8	12	13	4	3	3	2	13	2	5
9～11	4	6	0	1	3	0	9	0	3
12～14	0	3	1	0	0	0	4	0	3
15～17	2	6	1	0	1	1	2	1	2
18～19	0	1	0	1	0	0	0	1	0
未回答	1	1	1	1	0	1	1	1	1
総計	20	31	7	7	7	6	31	6	15

- 3～5歳では、保育所において「他の児童の行動が心配」や、「送り迎えの負担が大きい」との回答が多くありました。
- 6～17歳の就学年齢では、共通して、「送り迎えの負担が大きい」ことや、「学校の職員が行うことができる医療的ケアの範囲が限られること」について回答が多くありました。

問23④ 医療的ケア以外に、保育所・学校等において充実してほしいこと

年齢	療育相談の充実	障がいに応じたきめ細かな教育指導	教育の機会や場の確保	園内・校内のバリアフリー化などの環境整備	児童や生徒の悩みなどのサポート	進路相談・進路指導の充実	障がいのある人に対する職員や生徒などの理解の促進	障がいや病気の状態に応じた給食への配慮	長時間保育、放課後活動(クラブ活動・学童保育)の充実	医療・保健・保育・教育・福祉等各分野の多職種による連携会議の設置	その他	特になし
0～2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
3～5	4	6	1	1	0	2	1	1	4	1	1	0
6～8	7	11	5	6	3	1	14	10	4	11	3	4
9～11	2	5	3	3	0	3	3	7	2	4	2	8
12～14	3	8	2	1	0	6	7	2	2	4	0	1
15～17	2	4	1	5	1	9	2	2	7	5	3	3
18～19	1	2	1	1	0	4	2	2	2	3	0	0
未回答	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0
総計	20	37	13	17	4	25	30	24	22	29	10	17

- 3～5歳では「障がいに応じたきめ細かな教育指導」や「療育相談の充実」など、障がいや医療的ケアに合わせた対応や、「長時間保育」について充実してほしいとの意見が多くみられました。
- 6～14歳の就学年齢では、「職員や周囲の児童生徒の理解の促進」や、「障がいに応じたきめ細かな教育指導」、「障がいや病気の状態に応じた給食への配慮」、「多職種による連携」を求める意見が多くみられました。
- 15～19歳では、「進路相談・進路指導の充実」について回答が多くみられました。

問33 病気や療養、生活に関すること等の保護者の相談相手

年齢	主治医	受診している医療機関の医師以外の職員（看護師、相談員等）	障がい者団体や家族会の人	医療的ケア児を抱える他の保護者	同じ保育所等に通う他の保護者	訪問看護の職員	保育所、認定こども園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等の職員	児童発達支援、放課後等デイサービスの職員	相談支援（障がい児相談支援・計画相談支援）の職員	保健所・保健福祉センターの職員	家族・親族	知人	その他	相談相手はいない
0～2	12	7	2	5	0	12	0	6	6	1	7	2	0	0
3～5	15	7	2	8	0	11	1	14	9	4	10	0	0	0
6～8	29	11	2	16	4	17	10	17	18	6	19	8	2	1
9～11	21	4	2	12	0	18	7	13	15	2	12	4	0	0
12～14	26	6	3	8	5	7	10	13	15	2	14	5	0	0
15～17	18	3	1	7	3	6	10	9	11	3	8	1	2	1
18～19	10	4	0	5	1	6	4	2	4	0	6	3	0	0
未回答	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0
総計	132	42	12	61	13	77	42	76	78	18	77	23	4	2

- すべての年齢階級において「主治医」が最も多く回答されています。
- 次いで、「訪問看護の職員」や、「相談支援の職員」、「家族・親族」「知人」などが回答されています。
- そのほか、「保育所や学校等の職員」や、「児童発達支援・放課後等デイサービスの職員」など、普段医療的ケア児が過ごしている場所が相談相手となっている一方で、「保健所・区保健福祉センターの職員」の回答数は比較的少ない結果となっています。

問34 保護者の方にとって、不足している情報

年齢	医療的ケア児に対応可能な障がい福祉サービス等事業所の情報	医療的ケア児に対応可能な医療機関の情報	医療的ケア児が利用できる大阪市施策に関する情報	保育所・学校等に関する情報	家族会等に関する情報	医療的ケア児等コーディネーターに関する情報	その他	不足している情報は無い
0～2	10	5	11	9	5	8	1	1
3～5	12	10	13	14	7	8	1	0
6～8	17	11	14	8	8	11	1	6
9～11	12	4	11	5	1	7	2	4
12～14	9	7	7	2	2	4	0	2
15～17	11	5	10	2	1	5	5	3
18～19	6	4	8	1	1	2	1	1
未回答	1	1	1	1	1	1	1	0
総計	78	47	75	42	26	46	12	17

- 0～2歳では、「医療的ケア児が利用できる大阪市施策に関する情報」や、「医療的ケア児に対応可能な障がい福祉サービス等事業所の情報」が不足しているとの意見が多くみられました。
- 3～5歳では、特に「保育所・学校に関する情報」が不足しているとの意見が多くみられました。
- 6～17歳の就学年齢では、「医療的ケアに対応可能な障がい福祉サービス等事業所」や、「利用できる大阪市施策の情報」が不足しているとの意見が多くみられました。
- また各年齢階級において、「医療的ケア児に対応可能な医療機関の情報」や「家族会等に関する情報」、「医療的ケア児等コーディネーターに関する情報」について不足しているとの意見が共通してあることがうかがえます。

問35 今後、保護者の方が相談したいと思うこと

年齢	医療に関する相談	療養に関する相談	リハビリテーションに関する相談	学校・教育に関する相談	医療費助成制度の相談	福祉サービスに関する相談	小児期から成人期への移行に関する相談	就労・自立に関する相談	将来の暮らしの場に関する相談	その他	相談したいことはない
0～2	6	9	10	10	6	9	8	4	5	2	1
3～5	7	6	11	14	7	11	11	3	8	0	0
6～8	10	12	11	11	9	16	24	6	19	0	2
9～11	10	4	11	20	6	14	17	5	15	1	3
12～14	6	5	7	5	4	11	15	11	15	1	0
15～17	1	4	3	2	6	7	17	5	15	0	0
18～19	4	8	5	2	8	14	23	7	23	0	2
未回答	0	0	0	1	0	2	1	1	1	0	0
総計	43	44	55	63	40	77	99	37	86	4	8

- 0～2歳では、「リハビリテーションに関する相談」や「学校・教育に関する相談」のニーズが多く、次いで「療育に関する相談」や「福祉サービスに関する相談」のニーズが多くみられました。
- 3～5歳では、「学校・教育に関する相談」のニーズが最も多く、次いで「リハビリテーションに関する相談」や「福祉サービスに関する相談」、「小児期から成人期への移行に関する相談」のニーズが多くみられました。
- 6～8歳では、「小児期から成人期への移行に関する相談」が最も多く、次いで「将来の暮らしの場に関する相談」のニーズが多くみられました。